

専修大が川崎都市白書

市長に
中間報告
技術革新競争力を分析

専修大（日高義博学）都市白書」を阿部孝夫市長（社会知性開発、都市）長に報告した。二〇〇八年度までの五カ年計画の政策の両研究センターは、川崎市の国際的都市中間成果で、最終報告を競争力を分析した「川崎

市長に
中間報告
技術革新競争力を分析

スコピー発祥の地であるシアトルだった。課題として企業間、産学官による多様なネットワークの弱さ、理系大学院など、地域の特徴となる知的拠点の不在、交通ネットワークの弱さ、生活文化インフラの弱さなどを挙げた。望月宏・経済学部教授は、競争力の源泉となる科学技術者を市内に呼び込むために、ものを作る技術のみならず、文化産業を創造し、都市の魅力を高めることが必要」としている。公開講座には専大教授五人が発壇する。定員は百五十人（先着順）。参加者に白書が無料で配られる。申し込みや問い合わせは社会知性開発研究センター事務課 ☎(041)134711へ。(市毛史歩子)



専修大の平尾光司都市政策研究センター代表と望月宏経済学部教授＝川崎区で

白書は、イノベーション（技術革新）力を視点に、川崎市とアメリカの五十都市の競争力を比較し、川崎を全五十一都市中、十七位に位置つけた。都市インフラや環境、安全性（治安）、科学技術など九つの指標で比較。川崎は、治安や金融、企業の研究開発力など科学技術面で高いポイントをつけた。一位は、マイクロソフトやスターバック

白書は、イノベーション（技術革新）力を視点に、川崎市とアメリカの五十都市の競争力を比較し、川崎を全五十一都市中、十七位に位置つけた。都市インフラや環境、安全性（治安）、科学技術など九つの指標で比較。川崎は、治安や金融、企業の研究開発力など科学技術面で高いポイントをつけた。一位は、マイクロソフトやスターバック